



東日本大震災から3年

忘れないで、この命。

待っている。今、この瞬間も。

にゃんこはうす写真展

- ◆開催日／2014年7月18日(金)～21日(月・祝)
- ◆会場／パリオCITY
- ◆入場無料
- ◆主催／にゃんこはうす写真展実行委員会





伝えたい、福島被災地の今。

2011年3月11日、午後2時46分一。
あの日、あの時。観測史上最大級のマグニチュード9という、誰も経験したことのない大地震が東日本を襲いました。さらに、その後の津波一。多くの尊い命が奪われました。あれから3年。東北の被災地は、復興をめざしながらも今なお、もとに戻れない現実にもがき苦しんでいます。とりわけ、東京電力福島第一原子力発電所の事故に見舞われた福島は、より複雑で過酷な運命を背負われました。

知ってほしい、現実があります。

原発事故、水蒸気爆発、突然の避難一。
第一原子力発電所から半径20キロ圏内は、ある日突然、立ち入り禁止の「警戒区域」に設定されました。すぐに帰ることができる。そう思っていたのに……。あれから3年。いまだ帰ることも、住むこともできないでいるのです。

忘れないで、もの言えぬ命の存在を。

2011年3月の突然の避難によって、取り残された犬や猫たち。それまで、人とともに暮らしてきた、ペットと呼ばれる動物たち。たくさんの動物たちが、理由もわからず取り残されました。人がいなくなった町で。飲み水も、食べるものもままならず……。

福井で行き場のない猫を保護してケアをする「ねこさま王国」は、震災後の2011年4月から、福島へ通い、そうした取り残された動物たちのレスキューに関わっています。3年が過ぎた今も。福島の南相馬市に、猫のためのシェルター「にゃんこはうす」を設営し、これまでたくさんの猫を保護しています。今回、「にゃんこはうす」が見てきた福島の現実をぜひ知ってほしいと願い、写真展を地元・福井で開催させていただく次第です。

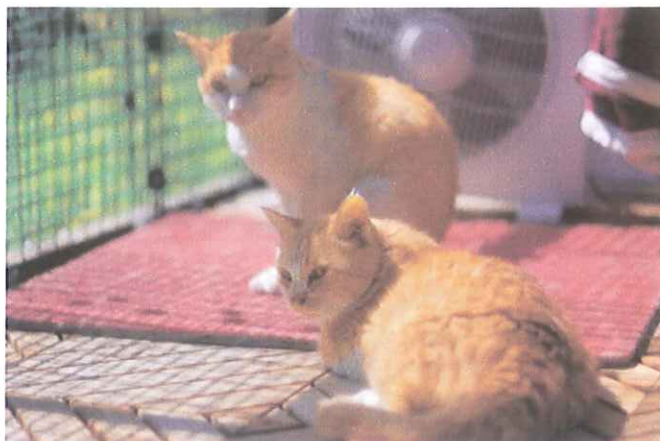




あきらめたくないから、
まだ頑張りたいから一。

この3年間、「にゃんこはうす」スタッフが撮りためた膨大な数の写真一。

伝えたい、知ってほしい。
この同じ日本という国で起きたことを。
それはある日突然、あなたの身にも起こるかもしれない
ということ。
今なお、人が住めなくなった町で、生きている犬や猫たちが
いるということ。



保護した猫が、飼い主さんと再会する。
猫も、人も、笑顔になります。

震災後、人がいない町で生まれた猫たちもいます。

見捨てていい命なんてない。
そのとき、そのとき。できることを。

たくさんの方たちの応援とご支援を受けての3年間。

あきらめの悪い私たちだから。
まだ、もう少し頑張りたいのです。
飼い主さんの笑顔を見るために。
取り残された命を、人のいるところへと連れ出すために。



素人が撮った写真ではありますが、見る人の心の琴線に
ふれるものが少しでもあれば幸いです。
そして、どうか忘れないでほしいのです。
震災で起きたことはまだ、過去のことでないということ。

※写真展では、写真展示のほか、「にゃんこはうす」の
維持、保護猫たちの医療費やレスキュー時に使うフード
などに充てるためのご寄付を募らせていただきます。
また、物販も行う予定です。